# シラバス参照

タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

| | | | |
|---|---|---|---|
| 科目ナンバー | RMGT3528 | | |
| 科目名 | テロ対策論 | | |
| 担当教員 | 河本　志朗 | | |
| 対象学年 | 3年,4年 | 開講学期 | 前期 |
| 曜日・時限 | 土２ | | |
| 講義室 | オンライン | 単位区分 | 選 |
| 授業形態 | 講義 | 単位数 | 2 |
| 科目大分類 | 専門 | | |
| 科目中分類 | 専門展開 | | |
| 科目小分類 | 専門・危機管理 | | |
| 科目の位置付け（開発能力） | ■ＤＰコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連<br>DP7-C〔他者理解・倫理観・公共心〕人間の行動の正誤に関する推論に正面から取り組み、社会的な存在としての自己の行動原理を獲得することができる。<br>DP1-E〔学識・専門技能〕専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。<br>DP3-G〔状況把握力・判断力〕自らの置かれた状況、及び自己が帰属する集団の内外の状況を的確に把握し、適切に対応することができる。<br>DP4-I〔理解力・分析力〕文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。<br>■ＣＲコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（ＣＲ）との関連<br>C1倫理的思考・社会認識－10%<br>E1学識と専門技能－50%<br>G1状況把握－10%<br>I1理解・分析と読解－30% | | |
| 教員の実務経験 | 担当教員は、山口県警察に21年間勤務し、その間3年間外務省に出向して在外公館の警備対策官としてテロ対策を含むセキュリティを担当し、1997年からは民間研究機関においてテロ対策を中心に研究してきました。2011年からは文科省科学技術審議会専門委員（安全安心科学技術及び社会連携委員会）としてテロ対策を含む安全安心科学技術に関する重要課題について検討しました。2008年に発足した「テロ対策東京パートナーシップ」の種々の取組にも協力しており、2017年からは海上保安庁主催の「海上・臨海部テロ対策協議会」の座長を務めています。授業においては、テロ防止に向けた警戒警備の取組、被害管理の取組における多機関連携の重要性、CBRNテロ対策とテクノロジーの活用などについて、これらの実務経験を踏まえて講義を行います。（第12回・第13回・第14回） | | |
| 成績ターゲット区分 | ■成績ターゲット　能力開発の目標ステージとの対応<br>3　発展期　～　4　定着期 | | |
| 科目概要・キーワード | テロ行為は特定の価値観に基づく自らの主張を暴力で実現させようとするものであり、組織的かつ反復継続的に行われることが多く、国民の生命、身体及び財産に被害を及ぼすのみならず国民の間に広く恐怖を拡散し社会に大きな不安をもたらすことから、テロを防止し、発生した場合に適切に対応することがきわめて重要です。テロの本質について理論的に考察した上で、テロの防止と発生したテロへの適切な対応に向けた国内外における様々な取組の現状を概観します。さらに、具体的な事例を取り上げて、法制度、社会政策の面から民主主義国家におけるテロ対策のあり方を検討します。テロ対策に関する総合的な理解を深めることを目標とします。授業形態は講義形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合がありま | | |

| | |
|---|---|
| | す。<br>■キーワード テロの未然防止に関する行動計画、テロ資金供与対策、過激化対策、ホームグロウンテロ、CBRNテロ |
| 授業の趣旨 | ■副題<br>テロの本質、脅威の現状、具体的なテロ対策について学び、テロの脅威から社会、組織、家族、自分を守ることのできる社会人を目指しましょう。<br>■授業の目的<br>テロは暴力によって特定の価値観に基づく主張の実現を目指すものですが、それが政治性を持つために普遍的に認められる定義が存在しないという問題を理解したうえで、テロの歴史的な経緯を俯瞰します。そして、現在の世界及び我が国が直面しているテロの脅威について、テロの主体、その主張、テロの形態、具体的なテロ事件など、その背景と現状を概観します。そのうえで、そうしたテロを抑止し、防止し、国家や国民をテロから防護し、テロの発生に備えて準備し、発生した場合に対処し、実行者を特定して処罰するための取組について、国際条約や国際機関の取組に基づく国際協力、我が国における法制度の整備や法執行能力の強化などによるテロ対策能力の改善について考察し、その中でテロ対策と民主主義、テロ対策と市民的自由といった問題について課題を発見しその解決に向けて考察を行うことを目的とします。<br>■授業のポイント<br>テロは、一部の標的に対して暴力を行使することによって、より広範な人々に不安や恐怖を植え付けることで自らの価値観を実現させようとする心理的な効果を狙った行為です。<br>そうしたテロは、時代によってその目的や主体を変えながらもなくなることなく続いています。最近では、テロ組織に属さない一般の若者が先導されてテロを実行するようになるなど、その未然防止も困難になっています。そうしたテロから社会や人々をどう守るべきなのかについて、様々なテロ対策の取組の現状について学び、そこから見えてくる課題を考察します。 |
| 総合到達目標 | ■テロが政治性を持つために普遍的に認められる定義が存在しないという問題を理解し説明することができる。<br>・各国の法律の規定や研究者によるものなど様々なテロの定義を比較して、その共通点を抽出することができる。（第2回、第3回）<br>・普遍的なテロの定義を構築するこれまでの取組を概観したうえで、普遍的な定義が困難である理由について説明することができる。（第2回、第3回）<br>■現在の世界及び我が国が直面しているテロの脅威について、テロの主体、その主張、テロの形態、具体的なテロ事件を概観したうえで、テロの防止及び発生した場合の被害管理、実行者の処罰などにおける我が国の取組と国際協力の現状について説明することができる。<br>・我が国及び国際社会が現在直面しているテロの脅威について現状とその変化について概観し、説明することができる。（第3回、第4回、第7回）<br>・我が国におけるテロ対策の現状と具体的な取組、テロ対策における国際協力の現状について概観し、説明することができる。（第5回、第6回、第8回～第14回）<br>■我が国におけるテロ対策の在り方における課題を発見し、その解決に向けた考察を行うことができる。<br>・我が国のテロ対策の取組について政府の取組を概観したうえで、取組における課題を発見し効果的な取組の在り方を考察することができる。（第8回～第13回）<br>・テロ対策において重要とされる多機関連携の現状を概観し、それを効果的に進めるための取組の在り方について考察することができる。（第13回、第15回）<br>・テロ対策における国民の協力の重要性について理解したうえで、協力を獲得するための効果的な取組について考察することができる。（第12回、第13回、第15回） |
| 成績評価方法 | 次の方法により成績を評価しますが、いずれの方法についてもポータル等を利用しての提出を求める場合があります。<br>■レポート1回（50%）<br>（評価の観点）テロの本質、様々な分野におけるテロ対策の取組の現状と課題、テクノロジーの活用、民主主義的価値観とのバランスの問題、などに関する専門的知識の修得の程度と、それを踏まえて具体的な課題の解決を導きだす力が身についているかを評価します。<br>（フィードバックの方法）授業の時間中にレポートの着眼点について解説します。<br>■小テスト3回（30%）<br>（評価の観点）テロの本質が理解できているか、テロ対策に関する専門的知識が修得できているか、習得した専門知識をテロ対策における課題の解決に向けて応用できるか、などについて評価します。<br>（フィードバック）授業時間中に解説します。<br>■リアクションペーパー4回（20%）<br>（評価のポイント）授業の内容や進行についての意見、テロ対策に対する意識の変化、課題解決に向けた意見などを自分の言葉で表現できているかを評価します。<br>（フィードバック）授業時間中に解説します。 |
| 履修条件 | 特にありません。 |
| 履修上の注意点 | 特にありません。 |

授業内容

| 回 | 内容 |
|---|---|
| 1 | ①授業テーマ　ガイダンス<br>②授業概要　授業の全体の構成、授業の目的と進め方、総合到達目標、成績の評価方法について十分に理解したうえで、学修計画をたてることができるようになる。<br>③予習（60分）シラバスの全体をよく読んで、授業の全体の構成について十分に把握しておく。<br>④復習（60分）授業を振り返り、授業の全体の構成、授業の目的及び到達目標を踏まえて、自らの学修計画を立てる。 |
| 2 | ①授業テーマ　テロの歴史と定義<br>②授業概要　テロに関する歴史を考察し、テロの本質と様々なテロの定義を概観したうえで、テロが政治性を持つために普遍的な定義が困難である問題を理解し説明できるようになる（E1、C1）。<br>③予習（180分）国内の法律や関係機関によりテロがどのように定義されているか、図書館でテロ関連の専門書などを閲覧して調べておく。<br>④復習（120分）授業を振り返って、普遍的なテロの定義が困難な理由を再確認しておく。 |
| 3 | ①授業テーマ　変化するテロの脅威<br>②授業概要　冷戦の崩壊に伴って、テロ主体の形態、支援者、動機や目的、戦術などが大きく変化し、これに沿ってテロ対策も変化してきた経緯を理解し説明できるようになる（E1、G1）。<br>③予習（120分）公安調査庁のサイトに掲載されている「国際テロリズム要覧」（Web版：http://www.moj.go.jp/psia/ITH/index.html）を閲覧して、世界にはどのようなテロ組織があるのか、それらの目的や主義主張は何かについて調べておく。<br>④復習（120分）授業を振り返って、テロの主体の変化に伴ってテロ対策がこれに対応しようとしてどのように変化してきたかを確認しておく。 |
| 4 | ①授業テーマ　世界と日本が直面しているテロの脅威<br>②授業概要　近年、活発にテロ活動を行っているテロ組織について、その主張や目的、勢力、活動地域、使用する戦術などを概観することにより、世界と日本が直面しているテロの脅威の概要を理解し説明できるようになる（E1、I3）。<br>③予習（120分）　公安調査庁のサイトに掲載された「国際テロリズム要覧」（Web版：http://www.moj.go.jp/psia/ITH/index.html）の「概観」の部分をよく読んで、現在のテロ情勢について把握しておく。<br>④復習（120分）授業を振り返って、現在、世界にとって最も深刻なテロの脅威はどんなテロ組織や思想によるものかを確認し、その理由について考えてみる。 |
| 5 | ①授業テーマ　テロ対策の具体的内容<br>②授業概要　テロ対策を大きく分けると、発生そのものを防止する未然防止と、発生した場合に的確に対処して被害を局限化する活動があり、それぞれ具体的にどのような取組なのかを理解し説明できるようになる（E1）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。<br>③予習（120分）テロの未然防止が重要であるとされる理由、万一テロが発生した場合に取るべき措置について考え、メモしておく。<br>④復習（120分）授業を振り返って、被害を局限化するうえで最も重要な要素だと思うものをあげて、その理由を考えてみる。 |
| 6 | ①授業テーマ　テロ対策における国際協力<br>②授業概要　テロの脅威は国を超えたものであることから、各国がそれぞれテロ対策を行うのみならず国際的に協力することが不可欠であること及びそのために行われている取組の概要を理解し概説できるようになる（E1、C1）。<br>③予習（120分）テロ対策のための国際条約にはどのようなものがあるか、またそれらの条約の内容はどのようなものかを調べてメモしておく。<br>④復習（120分）なぜテロ対策に国際協力が必要なのか、またなぜそれが困難な場合があるのか、それぞれの理由を考えてみる。 |
| 7 | ①授業テーマ　CBRNテロの脅威<br>②授業概要　日本でのサリン事件など具体的な事例を取り上げて、化学剤（C）、生物剤（B）、放射性物質（R）、核物質（N）を使用したいわゆる大量破壊兵器テロについて、その特徴と対処方法の概要を理解し概説できるようになる（E1、I3）。<br>③予習（120分）1995年に発生した東京地下鉄サリン事件とはどのような事件だったのかをできるだけ詳しく調べておく。<br>④復習（120分）CBRNテロのそれぞれの特徴と、対処の難しさについて確認しておく。 |

| | |
|---|---|
| 8 | ①授業テーマ　「テロの未然防止に関する行動計画」の意義と内容<br>②授業概要　2004年に日本政府が策定した「テロの未然防止に関する行動計画」の内容を概観し、日本のテロ対策における同文書の意義及びその成果について理解して説明し、課題について考察できるようになる（E1）。<br>③予習（120分）　「テロの未然防止に関する行動計画」（https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sosikihanzai/kettei/041210kettei.pdf）に目を通し、その内容を把握しておく。<br>④復習（120分）「テロの未然防止に関する行動計画」が実行的なものとして実現されてきた理由とその背景について確認しておく。 |
| 9 | ①授業テーマ　日本のテロ対策の現状<br>②授業概要　「テロの未然防止に関する行動計画」以降における日本のテロ対策の取組の現状について、その後に政府が作成した関連文書などを概観しながら、その概要を理解し概説できるようになる（E1）。<br>③予習（120分）内閣官房のサイトに掲載された「主なテロの未然防止対策の現状」に目を通して、日本のテロ対策の現状を把握しておく。<br>④復習（120分）「テロの未然防止に関する行動計画」とそれ以降の政府のテロ対策文書を比較して、どのように異なっているのか、そのことによるテロ対策の実行への影響について考える。 |
| 10 | ①授業テーマ　テロの防止に向けた取組①－水際対策と準備活動の発見<br>②授業概要　テロリストが外国から日本に潜入するのを防止するための水際対策の取組と、すでに国内に存在するテロリストによるテロの準備活動を発見・阻止するための取組について理解し説明できるようになる（E1）。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。<br>③予習（120分）内閣官房のサイトに掲載された「主なテロの未然防止対策の現状」の「１．出入国管理等の強化」の部分をよく読んで、具体的な水際対策の現状を把握しておく。<br>④復習（120分）テロ対策において国民は何ができるのか、事業者はそれぞれの業態に応じて何ができるのかを考えてメモしておく。 |
| 11 | ①授業テーマ　テロの防止に向けた取組②－危険物対策<br>②授業概要　テロリストが爆発物や爆発物を製造するための材料を入手したり、危険な化学剤、病原体、放射性物質などを入手することを防止するための取組の概要を理解し概説できるようになる（E1、I3）。<br>③予習（120分）内閣官房のサイトに掲載された「主なテロの未然防止対策の現状」の「４．NBCテロ等への対処の強化」の部分をよく読み、危険物に対するテロ対策としてどのような取組がなされているか把握しておく。<br>④復習（120分）テロに利用される恐れのある危険物にはどのようなものがあり、それが具体的にテロにどのように利用されるのかを確認しておく。 |
| 12 | ①授業テーマ　テロの防止に向けた取組③－警戒警備<br>②授業概要　テロの標的になる可能性の高い様々な施設などに対する警戒警備の取組について、概要を理解し概説できるようになる（E1、G1）。担当教員の在外公館における警備担当官としての実務経験を踏まえて、警戒警備の取組について解説します。<br>③予習（120分）内閣官房のサイトの掲載された「主なテロの未然防止対策の現状」の「５．国内重要施設の警戒警備の強化等」の部分をよく読み、どのような警戒警備が行われているのかを理解しておく。<br>④復習（120分）日本国内でテロの標的となる可能性が高い施設にはどんなものがあるのか、そうした施設においてはどんな対策が必要かを具体的に考えてみる。 |
| 13 | ①授業テーマ　テロ事件への対処－被害管理<br>②授業概要　テロ事件が発生した場合に、被害を局限化するために警察、消防・救急、自治体、自衛隊などの関係機関が相互に連携して対処する取組の必要性とそのための方策について理解し説明できるようになる（E1、C1）。担当教員の「海上・臨海部テロ対策協議会」の座長としての実務経験を踏まえて、多機関連携の構築について解説します。ここまでの授業の理解度について小テストを行い、結果については次回以降の授業中に解説します。レポートの課題について提示し、着眼点について解説します。<br>③予習（120分）「ＮＢＣテロその他大量殺傷型テロ対処現地関係機関連携モデル」（http://www.mhlw.go.jp/topics/2017/01/dl/tp0117-z02-01s.pdf）に目を通し、関係機関の連携の重要性と連携の方法について把握しておく。<br>④復習（120分）授業を振り返って、特性の異なる多機関が現場における連携を強化するうえで、どのような取組をすることが効果的なのかについて確認しておく。 |
| 14 | ①授業テーマ　テロ対策とテクノロジー<br>②授業概要　テロ対策、特にCBRNテロへの対処においてテクノロジーの果たす役割を理解し、そうしたテクノロジーの開発及び運用の現状について具体的な事例を概観し、その概要を理解し概説できるようになる（E1、I3）。担当教員の文科省科学技術審議会 |

| | | |
|---|---|---|
| | | 専門委員（安全安心科学技術及び社会連携委員会）としての実務経験を踏まえて、テロ対策におけるテクノロジー開発の重要性について解説します。<br>③予習（120分）化学剤・生物剤検知器や放射線を検知する資機材にはどのようなものがあるのか、具体的にどのような場合に使用されているのかについて調べておく。<br>④復習（120分）テロ対策を行ううえにおいて、テクノロジーの効果的利用がどのような利点をもたらすのか、またその課題は何かについて考えてみる。 |
| | 15 | ①授業テーマ　まとめ<br>②授業概要　これまで14回の授業を振り返り、世界及び我が国が直面するテロの脅威、テロ対策の具体的内容、現状と課題を踏まえて、効果的かつ国民の理解を得られるテロ対策はどのようなものか、その在り方を考察できるようになる。<br>③予習（120分）これまでの14回の授業を振り返り、現在の日本におけるテロ対策の課題について抽出し、その課題に対する解決方法を考察し、メモしておく。<br>④復習（180分）これまでのすべての授業について復習をしたうえで、自分の将来目指す進路において、テロ対策にどのような関与がありうるのかについて考えてみる。また、国民としてテロ対策にどのような考え方を持ち、どのような役割が果たせるのかについて考えてみる。 |
| 関連科目 | | 警察政策　RMGT3530、セキュリティ論　RMGT3523、国民保護　RMGT3522、運輸保安　RMGT3533、危機管理学特殊講義１（入管法・税関）　RMGT3321、消防救急　RMGT3507、安全保障論１　RMGT3551、国際テロリズム論　RMGT3558、海外安全対策　RMGT3559、などと密接に関連しています。 |
| 教科書 | | 特にありません。毎回、レジュメ及び資料を配布します。 |
| 参考書・参考ＵＲＬ | | テロ対策を考える会『テロ対策入門』（亜紀書房、2006年）<br>安部川元伸『国際テロリズム』（原書房、2017年）<br>宮坂直史『日本はテロを防げるか』（筑摩書房、2004年）<br>片山善雄『テロリズムと現代の安全保障』（亜紀書房、2016年）<br>事態対処研究会『実戦CBRNeテロ・災害対処』（東京法令、2018年）<br>安藤貴世『国際テロリズムに対する法的規制の構造―テロリズム防止関連諸条約における裁判管轄権の検討』（国際書院、2020年） |
| 連絡先・オフィスアワー | | ■連絡先　開講時に告知します。 |
| 研究比率 | | ■危機管理領域との対応<br>災害マネジメント20%；パブリックセキュリティ50%；グローバルセキュリティ20%；情報セキュリティ10%<br>■危機管理学と法学のバランス<br>危機管理学80%；法学20% |

戻る

Copyright (c) 2016 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.